

# 会津若松市水道施設総合整備計画（概要版）

## 総合整備計画

### 計画の目的

本市水道施設の中長期的な施設整備の方向性や整備方針さらに具体的な整備計画を示すことで会津若松市水道事業ビジョンの基本方針の一つである「強靱」の実現を目指すために「会津若松市水道施設総合整備計画」を策定します。

### 計画の位置づけ

本計画は、本市水道事業ビジョンを含めた上位計画との関係性を保ちながら、水道施設の中長期的な施設整備の方向性等を示す「基本方針」と本計画を具体化するために施設の耐震化をはじめとした各施設の整備計画や漏水対策の計画などの個別計画の概要等を示した「基本計画」で構成されます。

### 計画の期間

本計画の策定においては、アセットマネジメントとの関係性が重要です。「水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き（平成21年7月厚生労働省）」では30～40年程度の見通しをもって施設の更新需要を把握する必要性があると示しております。このことを踏まえ、本計画は将来的な視点に立った計画とするため、本市のアセットマネジメントの対象期間までの概ね30年間を見据えた上で、社会情勢や事業進捗財政状況を勘案しながら、整備にかかる基本計画について10年間の計画を定め、その後10年毎に見直しを行うこととします。

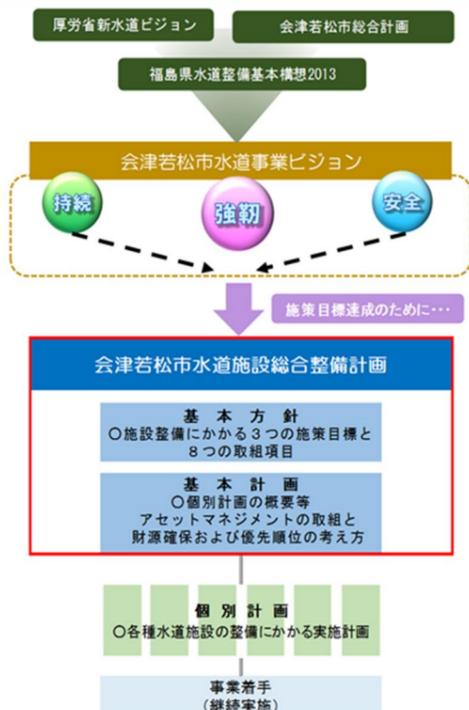


図1 本計画の構成と他計画等の関係性

## 取り巻く現状・課題

### 地震への備え

本市も活断層を有しています。いつ起こるかわからない地震に対し、事前の備えとして水道施設の耐震化やバックアップ機能の構築を進めなければなりません。

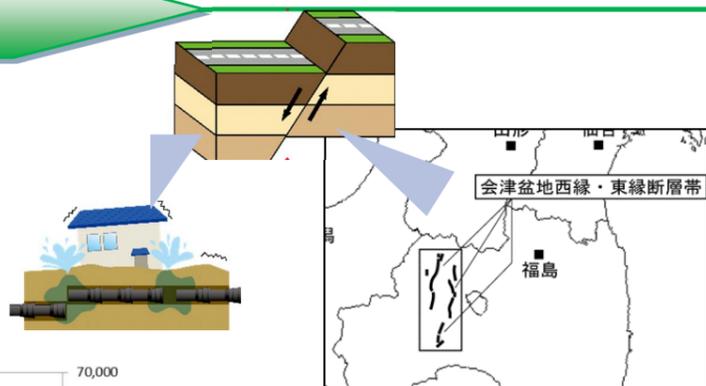


図2 地震による水道管破損の恐れ  
引用：社）日本水道協会 水道PRパッケージ  
地震調査研究推進本部ホームページ

### 将来的な給水人口と配水量の減少

少子化を起因とした人口減少の影響から本市の給水人口の減少が見込まれます。平成27年の推計値ではその10年後の平成37年時点で給水人口107,604人1日平均給水量は37,942 m<sup>3</sup>となることが推計され配水量は約10%減少することが予測されています。

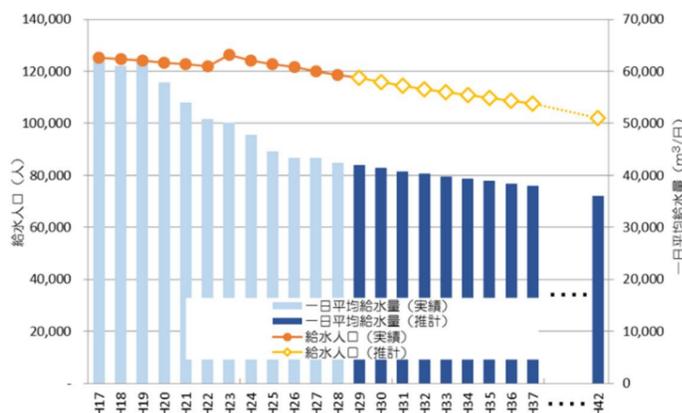


図3 将来の給水人口と配水量の予測

### 管路を中心とした施設の老朽化

市内中心部には創設時の管路が多く埋設されており、現在、約80年余が過ぎ、老朽化が著しく進んでいます。老朽化施設への対策として、今後も継続して財政計画とマッチングさせながら計画的に進めていく必要があります。



写真1 老朽化による配水管の漏水跡

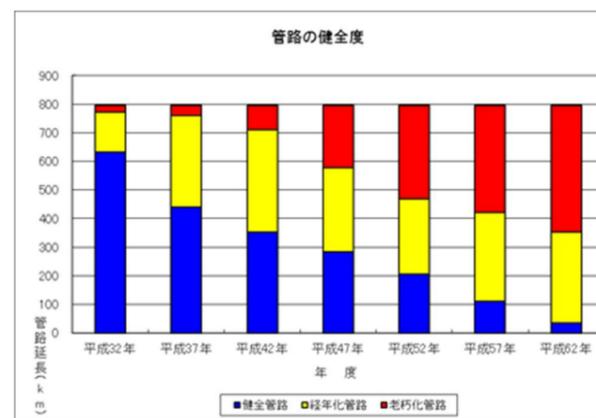


図4 管路を更新しなかった場合の健全度（赤色及び黄色が更新期を迎えているまたは速やかに更新すべき管路延長）

### 計画的な施設更新が必要

平成28年に実施したアセットマネジメントの結果、構造物及び管路等を更新しなかった場合、将来的に全施設の健全度が半分以下となることが判明したところ。現状において既に耐用年数を超えた資産や今後、老朽化する施設を考慮すれば早い時期に計画的な更新が必要とされ、より高い健全性のある水道施設を目指さなければなりません。

### 無駄なく水道水をお届けする

水道管の漏水は有収率に直接影響し、それを最小限に留めることは水道事業経営にとって重要な要素であります。漏水の未然防止と有収率の向上の観点からも、有収率のさらなる改善に向けた取り組みを計画的に進めていく必要があります。

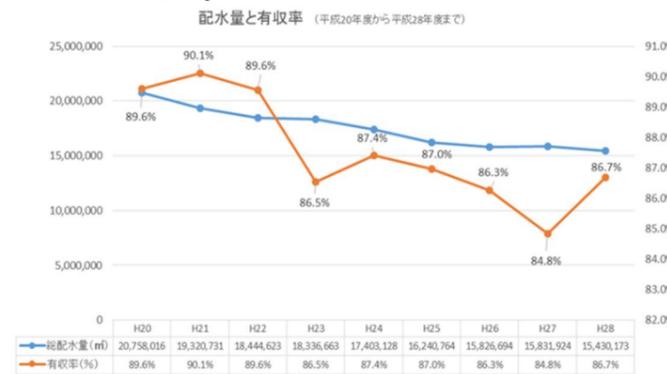


図5 本市の配水量と有収率の推移

## 基本方針と基本計画

### 施設整備に関する3つの施策目標と8つの具体的取組、さらに個別計画で施設を整備

### 施設整備に係る考え方

本計画では施設整備に関する方向性や整備方針等の基本方針と施設整備の実施にあたっての基本計画（個別計画の概要等）を示すものです。施設の老朽化や水道事業を取り巻く社会的要因に適切に対応し、財源確保をしつつ計画的に施設整備を推進します。

